

園舎見学会 2025.02.17

toKI

2025年02月17日 見学会のご案内

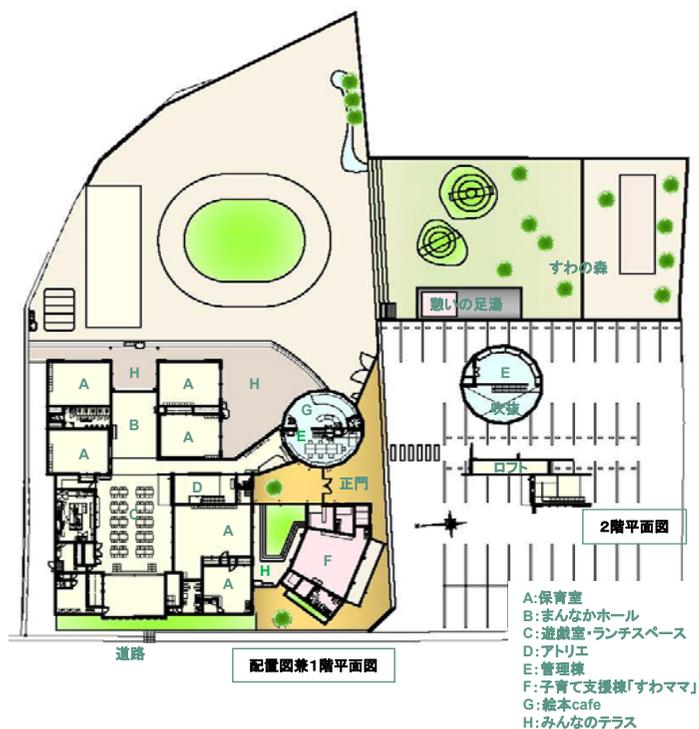
■訪問先①

幼保連携型認定こども園 すわこども園

〒895-1203 鹿児島県薩摩川内市樋脇町市比野550

TEL:0996-38-1193

<http://www.suwa-kodomoen.com/>



■スケジュール

11:00 すわこども園見学①

12:30 昼食(別途各自払い)

13:30 川内すわこども園、tetote見学②

15:00 川内すわこども園SECOND見学③

17:30 見学終了

20:00 懇親会



ご希望の方は天文館にて懇親会をご用意しておりますので天文館周辺の宿泊先をご準備お願いします。

(懇親会の夕食代、宿泊代、交通費は別途各自払い)

参加費:1人3万円(税別)

※ 各自移動(車、レンタカー、タクシー等)をお願い致します。

参加人数により、バスを手配する場合は別途ご案内致します。

参加募集締切:2025年1月24日まで

■訪問先②

幼保連携型認定こども園 川内すわこども園
tetote(子育て支援センター、病児保育、児童クラブ、
コワーキングスペース)

〒895-0061 鹿児島県薩摩川内市御陵下町19番5号
TEL:0996-22-2764

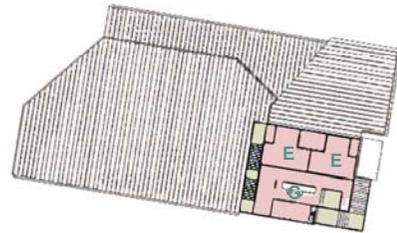
<http://www.sendaisuwa.com/>



2階平面図



- A:保育室
- B:ランチホール
- C:子育て支援ルーム
- D:放課後児童クラブ
- E:病児保育室
- F:てとてCafé(コワーキングスペース)
- G:職員スペース
- H:調理室
- I: Cooking studio



2階平面図

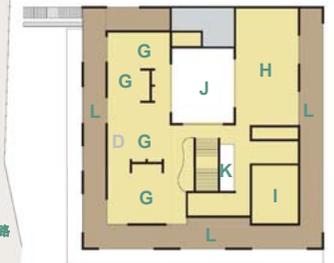
■訪問先③

幼保連携型認定こども園 川内すわこども園SECOND
〒895-0072 鹿児島県薩摩川内市中郷3丁目327-1
TEL:0996-24-8400

<http://www.sendaisuwa.com/2nd/>



配置図・1階平面図



2階平面図

- A:保育室
- B:ランチホール
- C:子育て支援ルーム
- D:保育Labo(職員スペース)
- E:bushitsu(職員スペース)
- F:てとてCafé(職員・保護者スペース)
- G:保育スペース
- H:アトリエ
- I:午睡室
- J:吹抜
- K:吹抜ネット
- L:みんなのデッキ

山間部から平野部の温泉地に移転したSUWAこども園。建設地は温泉水を冷却し販売していた工場跡地。
 近隣の山は「丸山」と呼ばれ、そのシルエットを模したドーム型の管理棟。
 正門脇に子育て支援棟「すわママ」を併設。産前産後のケアを行う。
 保育棟は「まんなかホール」を中央に各保育室を設けている。

SUWAこども園

建築主 社会福祉法人諏訪福祉会
 定員 80名(1号9名・2、3号71名)
 所在地 鹿児島県薩摩川内市
 構造規模 木造平屋一部2階建
 延床面積 935.95㎡
 竣工年月 2018年3月



子どもたちに様々な発見、体験をすることで成長してほしいという思いからスタートしました。
 水場に集まる動植物を発見し観察や触れることができる場所。
 地面の下を通る地下水、地熱により温められた温泉水を体感できる場所。
 個性豊かな子どもたちが普段から交流し、発見したもの、体験したことの経験や情報を共有できる場所。
 地域のお母さんや住民の方が気兼ねなく集まることが出来る場所。





地域の山「丸山」のシルエットを模したシンボリックなドーム型の外観。既設の井戸、温泉井戸を活用し、じゃぶじゃぶ池・憩いの足湯を設け五感に触れる場としました。保育室は「まんなかホール」を中央に配置し、自然発生的に子どもたちの交流が始まる。また、遊戯室・みんなのテラスまで交流の縦軸がつながる。

まんなかホール



遊戯室からキッチンをのぞむ

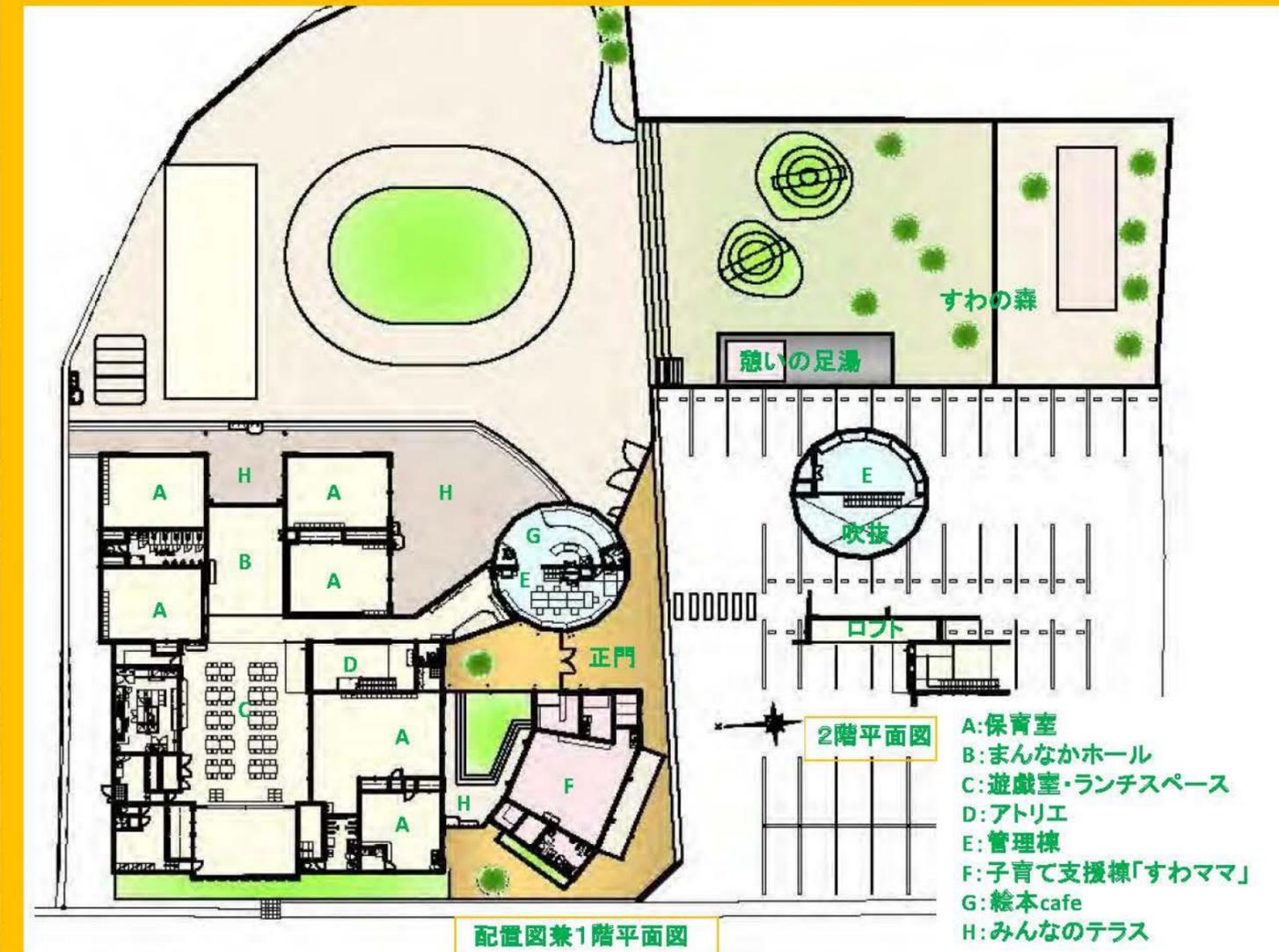


みんなのテラス



遊戯室・ランチスペース

交流の場を連続する山型梁がつなぎ子どもたちの成長を見守る



川内すわこども園、tetote

「子ども」で変わる、まちの新しいコミュニティ
～こどもとまちの繋がりをデザインする～



病児保育室
1階部分に
子育て支援センター
Cooking Studio







△子育て支援センター、Cooking Studio ▽コワーキングスペース



川内すわこども園SECOND

建築主 社会福祉法人諏訪福祉会
定員 120名(1号35名・2、3号85名)
所在地 鹿児島県薩摩川内市
構造規模 鉄筋コンクリート造2階建
建築面積 790.20㎡
延床面積 1,524.13㎡
開園年月 2020年4月



北側夕景



南側夕景



東側園舎正面
近隣に配慮し木の防音壁を設置

2018年鹿児島県薩摩川内市の待機児童解消のため、市有地を活用し認定こども園を設置、運営する法人募集により採択され2020年4月に開園した川内すわこども園SECOND。建設地は静かな住宅地。新規住民として近隣に配慮しつつ建物内外部が開放的で繋がりのある空間をもつ幼保連携型認定こども園。



園庭
隣接市有地の地域シンボルツリーを移植



ととてCafé前テラス 外部からも立ち入れる



川内
すわこども園
SECOND
定員 120名
no.097



保育者が笑顔で仕事 さあ、大人も子どももワクワクしよう

《保育環境改善等事業》

令和5年度、531億円の概算予算を要求している事業にノンコンタクトタイムを確保し、保育士同士で保育の振り返り等を実施するためのスペース等の設置に必要な改修費用等について補助対象に追加している。

ノンコンタクトタイムとは保育現場において通常の8時間の勤務時間内に発生する休憩時間とは別に、物理的に子どもたちと離れ、各種業務を行うことができる場所、時間を確保すると。

保育者が笑顔で仕事ができる環境づくりを考えてみよう。

今回は、鹿児島県薩摩川内市の「川内すわこども園SECOND」おとなのためのリソーススペース(ノンコンタクトスペース)をご紹介します。



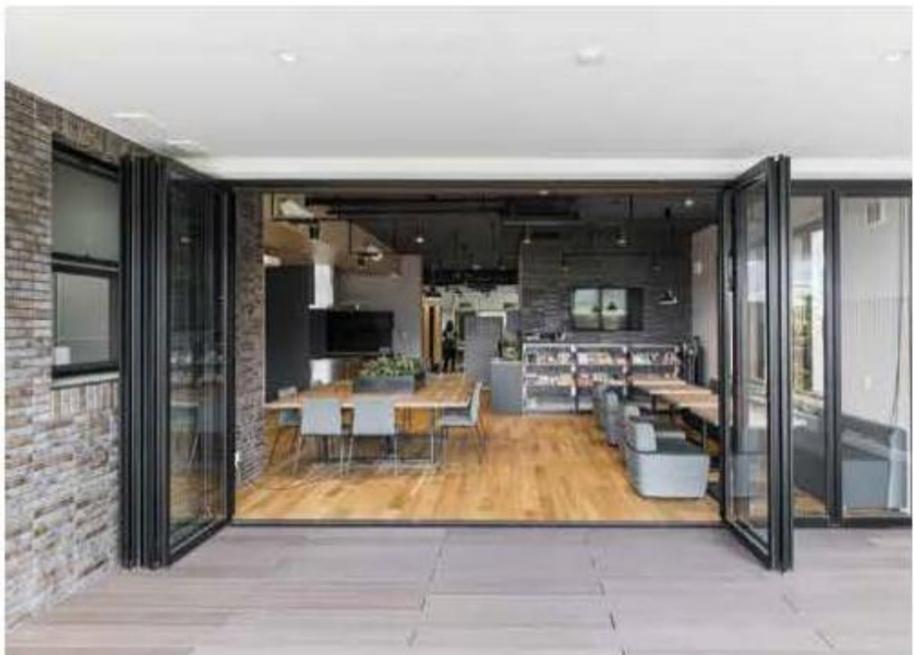
△ tetote café(ノンコンタクトスペース)



△ 保育Labo(事務スペース)との間には間仕切りがない。



▽ 保護者も容易に利用できるような玄関側に設置。



A: 保育Labo(事務職員スペース)

ここは自席を決めないフリーアクセススペースとした。もちろん園長先生の席も決めていない。個人の書類教材等は移動式キャビネットに収め自身のキャビネットを移動して空いている席を利用し作業をしている。座る席によって、毎日、目に入る景色や先生たちの顔ぶれが違いため、新鮮な気持ちで仕事に取り組むことができる。



△ サインはシンプルに



B: BUSHITSU(部室)

保育者の作業スペースを設けており、各種保育記録の作成、教材の準備や製作、少人数でのミーティング、保育の振り返りなどに使用している。扉はないが半個室となっているため管理スペースの中でも集中して仕事に取り組むことができるつくりとなっている。



△ 2～5歳保育スペース



C: 保育Labo(職員作業スペース)

2階の2～5歳の保育スペースにも扉を設けていない、1つのつながるスペースとし、異年齢間の交流が自然とおこなわれている。その中央にも1階同様フリーアクセススペースの「保育Labo」を設け、保育者が各種保育記録の作成や制作物の準備ができるスペースを確保した。



◁ 玄関を入ると正面に2階へつながる大階段と靴本コーナー
右にtetote café
左に子育て支援ルーム



D: tetote café(リソーススペース)

基本的には保育者のスペースとしているが、来園者への対応、保護者との談話スペースも兼ねている。また、お迎えの時間に保護者が帰宅前にコーヒー片手にほっと一息ついた保護者同士の交流スペースとしても利用できるようにフレキシブルに使用している。Caféスペースは玄関のすぐ脇に配置し保護者がいつでも気軽に利用できるように外部からも立ち入ることができる設計となっている。



当園ではソフト面の対応として、勤務中の保育者の中で1日子どもと関わらない「記録の日」を設定し、事務作業や行事の準備など集中的に行える勤務体制の取り組みも始めている。残業量が減り、心に余裕ができることで日々の保育をより良いものにするための取り組みである。

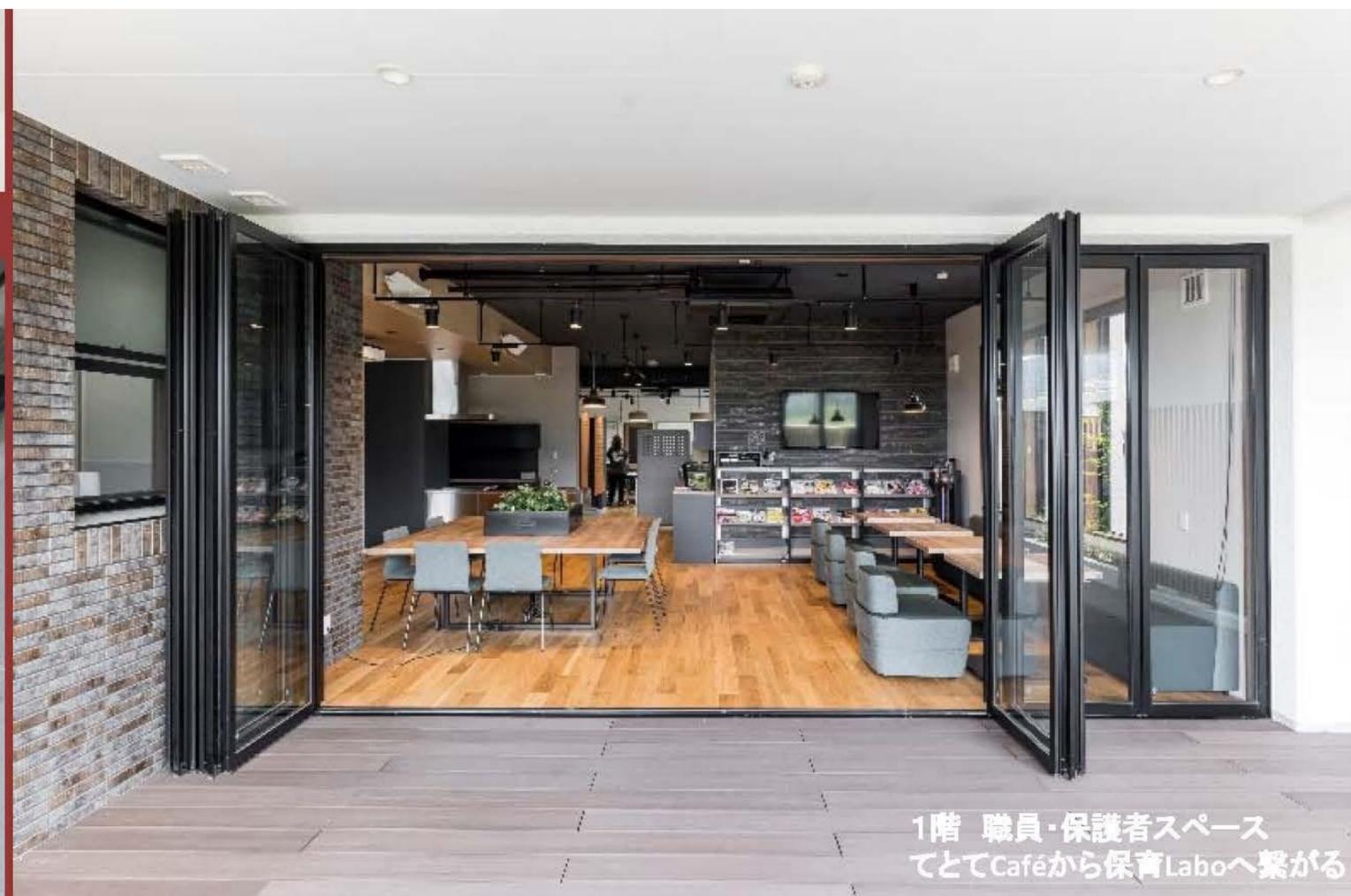
最後に、ノンコンタクトタイムの確保は子どもたちと直接かかわるコンタクトタイムをより充実したものにするために重要でありさらには保育者同士の連携や安全な保育を行うためには必要不可欠と言っても過言ではない。

川内すわこども園SECOND

仕切りのない1つの繋がりのある保育スペース、異年齢の交流が自然と生まれる



2階 2-5歳保育スペース
みんなのデッキは幅3m
内外部開放的は空間となる



1階 職員・保護者スペース
てとてCaféから保育Laboへ繋がる

子どもたちの保育スペースと大人が使用する管理・休憩スペースを明確にゾーニング

